

色つやは月日を経るごとに増し
いつか、土へと還っていく

柔らかい木肌の風合いが広がる、穏やかで心地よい空間。濃い色のカウンター天板は、南洋桑という木を用いている。収納の戸は「縦舞良(たてまい)」といって、横張りの板を縦の棧で押さえ、裏に出ないよう裏から釘を打つ、手の込んだもの。キッチンは梁の出た勾配天井、ダイニングは対比してすっきりと仕上げられ、全体に調和の取れたデザインとなっている。

木の床はこれから光沢を増して
もっとも美しい姿となるのは何十年も先という。
梁材に現れた文様も、木の呼吸に合わせて少しずつ変わる。
自然から生まれた家は、
刻々と変化する味わいで住む人を長く楽しませ、
やがて役割を終えれば、また大きな自然に還っていく。